



2006トリノオリンピック カーリング日本女子代表 チーム青森の7日間 笑顔…涙… 彼女たちが 残してくれたもの



対ロシア戦 ●

いよいよチーム青森の戦いが始まった。序盤はゲームを支配し、第5エンドで4対1と思いどおり展開だったが、最終エンドで逆転され、まさかの敗戦。ソルトトレイクでの初戦が思い出される…

対アメリカ戦 ○

先制され追い付いても離されるという一番苦しいパターンだったが、今度は最後まで集中力を切らさずに延長の末、勝利を収める。

小野寺選手の「ただ出場するのは意味がない」という執念が呼び込んだ1勝で、これで波に乗れると誰もが感じた。

対ノルウェー戦 ●

リード・目黒選手を寺田選手に変更して望んだこの試合は、序盤からミスが続く。特に中盤以降の小野寺選手の不調が最後まで響く。第9エンドで5点差…届かない…ギブアップ…完敗…

対デンマーク戦 ●

要所要所のスーパージョットで、序盤を4対1とリード。しかし、小野寺選手が明らかにおかしい。ノルウェー戦の敗戦を引きずっているのか。中盤に逆転され、そのまま敗戦…試合終了直後の小野寺選手の今に▼

待感がそれを上回る。終盤になって調子は崩れず、見事勝利!!この日は、映画「シムソング」の公開初日。この大金星が最高のはなむけになった。

対スウェーデン ●

世界王者で、この予選もほかを寄せ付けず1位をひた走っているスウェーデン。そんな王者を相手に、第5エンドまで5対2とリードを奪う。その後は、点の取り合いとなり勝負は延長に突入。勝利目前だったが、王者はそれを許さなかった。相手スキップの狙い澄ました最終ジョットは円の中心へ…日本は大健闘したが、4強入りが難しくなったのは事実…

対イギリス戦 ○

もう一敗もできない状況で迎えたイギリス戦。しかし、前回の五輪の金メダルチーム相手に第5エンドまでに5点差と大量リードを奪う。第6エンドに3点を失い、流れはイギリスに傾きかけたかに見えたが、林・小野寺選手のスーパージョットがそれを取り戻す。イギリスがギブアップ…10対5…追い風が吹いてきた。

対イタリア戦 ○

予選最下位とはいえ、地元での熱い応援を背に正確なジョットを決めてくるイタリア。一進一退の攻防が続くが、最終エンドに2点を勝ち越し劇的な勝利。これで勝敗を4勝4▼

熱闘の軌跡

torino 2006 women's curling results

予選第1試合 ロシア○(7-5)●日本 ●

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	トータル
ロシア	1	0	0	0	0	1	2	0	0	3	7
日本	0	0	1	1	2	0	0	1	0	0	5

予選第2試合 アメリカ●(5-6)○日本 ●

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	トータル
アメリカ	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	5
日本	0	0	2	1	0	0	0	2	0	0	1	6

予選第3試合 ノルウェー○(9-4)●日本 ●

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	トータル
ノルウェー	1	0	0	3	1	0	2	0	2	-	9
日本	0	0	0	0	0	2	0	2	0	-	4

予選第4試合 ●日本●(5-9)○デンマーク

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	トータル
日本	0	1	2	1	0	0	0	1	0	0	5
デンマーク	1	0	0	0	3	2	0	0	2	1	9

予選第5試合 ●日本○(5-2)●カナダ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	トータル
日本	0	0	2	1	0	0	1	0	0	1	5
カナダ	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2

予選第6試合 ●日本●(7-8)○スウェーデン

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	トータル
日本	1	2	0	0	2	0	0	1	0	1	0	7
スウェーデン	0	0	0	2	0	2	1	0	2	0	1	8

予選第7試合 イギリス●(5-10)○日本 ●

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	トータル
イギリス	0	0	0	1	0	3	0	1	0	-	5
日本	0	2	1	0	3	0	1	0	3	-	10

予選第8試合 イタリア●(4-6)○日本 ●

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	トータル
イタリア	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	4
日本	0	1	0	0	1	0	0	2	0	2	6

予選第9試合 スイス○(11-5)●日本 ●

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	トータル
スイス	1	2	0	4	0	0	0	4	-	-	11
日本	0	0	2	0	1	1	1	0	-	-	5



も泣きそうな顔が、この試合のすべてを物語っていた。

敗の五分に戻し、準決勝進出の望みをつないだ。

対カナダ戦○
相手は今大会の調子はイマイチだが優勝候補の一角のカナダ。ゲームは静かな展開でスタートしたが、明らかに前の2試合とは違う。カナダの調子は今ひとつなのだが、それ以上に小野寺選手の復調が感じられる。それに呼応するよう本橋選手や林選手もスーパースhotsを決める。第5エンドが終わり3対1。数字上はまだまだ安心できない展開だが、期

予選最終戦。それぞれの4年間の思いをぶつけ戦った。しかし、11対5の完敗で、彼女たちのオリンピックは終わった。勝負に「タラ・レバ」はないが、どうしても序盤の不調が悔やまれる。彼女たちは今後どうするかはわからない……でも4年後、さらに成長した彼女たちが世界を相手に戦う姿をみたい……今回の戦いを振り返ると強くそう思う。

対スイス戦●